

令和3年度学校評価(年間評価)

学校名 大分県立日田高等学校

前年度評価結果の概要
○生徒の思考を促す発問などによる授業改善は、授業アンケートの結果からも推進されてきていると考えられる。ICTの活用を通しての個別最適化の学びや授業と家庭学習とを結びつける手法が課題である。
○SSH事業の取組で探究活動が定着し、地域課題の解決に向けた取組が進んだ。進路意識を高める事業への参加生徒数も高水準を維持している。地域との結びつきを深め、地域の活性化や生徒のキャリア教育の充実により、生徒募集へつなげたい。
○今年度は「人間関係づくりプログラム」2年目として、生徒の仲間づくり、集団づくりの取組を実施した。対象学年の1年生の欠席数の減少を見ると、一定の成果が表れている。引き続き心のケアやプログラムの更なる充実など教育相談活動の継続が課題である。
○「日田高だより」「SSHナウ」、学校HPなどを通して、学校の広報活動を行ってきたが、志願率の低下を考えると、広報活動が重要課題となる。中学校訪問や広報誌の更なる充実、行事のオンタイムでの情報発信など、計画的に行う必要がある。
○業務の精選や見直しは進み、一定の成果は上がった。しかし、教職員の時間に対する意識や業務処理の計画性の乏しさ、業務の偏りなどがあり、全体的には働き方改革はこれからである。業務分担の適正化、タイムマネジメントに関する研修を早期に実施する必要がある。

学校教育目標 中期目標 重点目標
1 主体的な学習態度を育成し、生徒一人一人の学力向上と進路志望の達成
2 生徒の自主性を涵養し、学校行事やSSH事業・部活動等の充実による、心豊かでたくましい人間の育成
3 安全・安心な教育環境を堅持し、SSHとして生徒・保護者・地域から愛され選ばれる学校づくり
1 主体性・探究力の向上
2 協働性・社会性の涵養
3 表現力・発信力の強化
4 働き方改革を実践できる職場環境を実現させ、ワークライフバランスを整える

Table with 7 main columns: 重点目標, 達成(成果)指標, 重点的取組, 取組指標, PL SL, 自己評価結果 (評価, 分析・考察), 次年度の改善策, 学校関係者評価. Contains detailed evaluation data for various goals like '主体性・探究力の向上', '協働性・社会性の涵養', '表現力・発信力の強化', and '働き方改革'.

総合評価 次年度への展望等
○目標提示や振り返りの時間の設定が定着してきており、授業アンケートの結果からも授業改善は推進されてきていると考えられる。今後は、ICTの活用を通して、個別最適化の学びや授業と家庭学習とを結びつける手法を確立し、授業内容の理解力の向上、学力の定着につなげていくことが重要な課題である。
○育成したい力を「日田高RGB」として8つにまとめ、この1年その育成に努めた。年3回の意識調査、アンケートを踏まえ、探究する力(R)、基盤となる力(B)については、順調に成果をあげている。今後は、波及させる力(G)つまり、地域や社会への発信力、実践力の意識向上、育成に力を入れていきたい。
○今年度は「人間関係づくりプログラム」2年目として、生徒の仲間・集団づくりの取組を全学年で実施した。一定の成果はあげていると思われるが、多欠席の生徒がいる現状を考えると、プログラムの更なる充実に加え、引き続き面談の実地やスクールカウンセラーとの連携を通して、心のケアをはじめとする教育相談活動の継続が求められる。
○「日田高だより」「SSHナウ」、学校HPなどに加え、今年度は研究発表会等のYouTube配信を実施するなど、学校の広報活動には力を入れてきた。しかし、本校志願率の伸び悩みを見ると、次年度は学校PRの広報活動が重要課題となる。中学校訪問や広報誌の更なる充実、行事のオンタイムでの情報発信、動画、ビデオの配信など、計画的かつ積極的に進めていきたい。
○今年度は行事の振り返りの定期実施による行事の精選、業務の精選や見直しは効率よく実施できた。また、行事等の実施においても教員の業務内容の軽減、公正化に努め一定の成果は上がった。しかし、教職員の時間に対する意識や業務処理の計画性の乏しさ、業務の偏りなどがあり、働き方改革はこれからの状況である。業務分担の適正化、タイムマネジメントや業務処理に関する研修の実施などを年度初めに実施したい。